

彦根市総合教育会議 会議録要旨

令和3年度第1回彦根市総合教育会議	
日 時	令和3年7月19日(月) 午後2時00分～午後4時00分
場 所	彦根市役所4階 特別応接室
出 席	彦根市長 和田 裕行 教育長 西嶋 良年 教育長職務代理者 本田 啓子 委 員 小松 照明 委 員 永濱 隆 委 員 西川 孝子
欠 席	なし
議事次第 1 議題 (1)令和3年度スケジュール (2)教育大綱の策定について	

○企画課長

本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。ただいまから、令和3年度第1回彦根市総合教育会議を開催いたします。本日の進行を務めさせていただきます企画課長の馬場です。どうぞよろしくお願いいたします。

総合教育会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により設置しているもので、本日の総合教育会議は公開により開催いたします。

つづきまして、本日お配りしています資料につきまして、確認をお願いします。

まず次第が1枚、資料1として「令和3年度彦根市総合教育会議のスケジュール(案)」が1枚、資料2として「彦根市教育大綱」が1部、資料3として「令和3年度教育行政方針」が1部、「子どもたちの豊かな育ちのために」のパンフレットが1部となります。不足等ございましたら事務局までお願いします。

本日は、まず事務局から今年度のスケジュール等の説明を行った後、皆様から現行の教育大綱についての意見等をお聞かせ願えればと思いますので、よろしくお願いいたします。

なお、本日は遅くとも16時までには終了させていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、はじめに和田市長から、令和3年度の総合教育会議を進めていくにあたり、ご挨拶をお願いいたします。

○市長

こんにちは。

令和3年度第1回の彦根市総合教育会議開催に当たりまして、一言ごあいさつ申し上げたいと思います。皆様におかれましては、日頃から本市の教育行政にご尽力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、今年度におきましては、現行の教育大綱が終期を迎えるにあたり、新たに次期教育大綱を作っていく年度になります。

私は、今年の4月の選挙以来約3ヶ月間、若い世代、子育て世代から出て行かず移り住んでもらうまち、いわゆる持続可能なまちづくりをしていきたいとお伝えしてきました。それはやはり、子育て支援ということだけではなく、教育というのも非常に重要であると思っており、安心して任せられる教育ができる彦根市を皆様と一緒に作っていききたいと考えております。

選挙を通じて、市民の皆様にお約束したのが「心の教育」と銘打ったことを、お伝えさせていただいておりました。この内容につきましては、これも皆さんとこれから議論を深めていくことではありますが、好奇心や、知的向上心、そして自己肯定感、何でもやってみようとするチャレンジ精神、こういったものを養うといった教育のエッセンスをどう織り込んでいくか、いわば市民の信託を受けて、お約束してきた中で、織り込んでいければ、皆様と一緒に考えてバージョンアップしていければと考えております。

本市では、もう全小中学校の生徒にタブレットの配布が終わっておりまして、ハードの分野では、準備ができたのですが、これからこのソフトの分野の充実に向けて、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。そして、やはり変化の速い多様化の時代ですので、学力ということのみならず、文化或いはスポーツの分野でも、才能をしっかりと伸ばしていける人材の育成、これが目指せる彦根に、皆様と一緒にしていきたいと思っておりますので、ぜひ忌憚のないご意見を頂戴し、実りある会議にしていきたいと思っておりますので、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大変簡単ではございますが、開催にあたってのごあいさつとさせていただきます。よろしくお願いたします。

○企画課長

ありがとうございました。

それでは、議題に従いまして進めさせていただきます。まず、(1)令和3年度スケジュール(案)について、事務局より説明いたします。

○事務局

はい、それでは議題1の年間スケジュール(案)について説明させていただきます。資料1の「令和3年度彦根市総合教育会議のスケジュール(案)について」をご覧ください

い。今年度の総合教育会議につきましては、現行の教育大綱が今年度で終期を迎えることから、新たに教育大綱の策定を行うため、年間5回会議を開催する予定としております。第1回の会議につきましては、本日でございます。第2回の会議以降につきましては、予定となっておりますが、8月、10月、12月、1月頃に開催を予定しており、全5回で教育大綱を策定できればと思います。なお、教育大綱の策定以外の議題としまして第3回には「令和4年度の予算について」、第4回には「全国・学力学習状況調査の結果を受けて」を予定しております。策定の進捗状況や、緊急時案が生じた場合に依りて適宜、会議の開催については調整していきます。以上、簡単ではございますが、説明を終わります。

○企画課長

令和3年度スケジュールについて説明をいたしました。

今ほど説明申し上げたスケジュールで進めてまいりたいと思いますが、いかがでしょうか。ご意見等は無いようですので、令和3年度は、今ほどご説明いたしましたスケジュールに基づき、進めさせていただきます。

それでは、「(2)教育大綱の策定について」に移らせていただきます。務局より説明をお願いいたします。

○事務局

それでは現行の教育大綱について改めて内容等の説明させていただきます。

資料2の教育大綱の冊子をご覧ください。

彦根市教育大綱は、平成27年度に3年計画として策定し、その後、平成29年度に計画期間が満了となることに併せて、従来の教育大綱に新たに「保幼小の連携、就学前教育の充実」と「保育環境の整備」に関する視点も盛り込み、平成30年度を始期とする4年間の教育大綱を策定いたしました。これが今お手元でございます資料2の教育大綱でございます。

教育大綱の構成といたしましては、1ページには「はじめに」として、市長の考えを述べ、2ページには、趣旨や計画期間を記載するとともに、本計画の体系図をお示しております。

体系図をご覧いただければと思いますが、教育大綱では、基本方針を「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち、次代を担う心豊かでたくましい人を育みます」とし、その方針に従って、

- (1) 子ども一人ひとりの力を伸ばし、「生きる力」を育みます
- (2) 持続可能な社会を担う人づくりを進めます
- (3) 次代を担う地域の子どものをみんなで守り育てます
- (4) 市民一人ひとりが生きがいをもって、心豊かに学び続けられるまちをつくります
- (5) 歴史と伝統を生かし、文化の香り高いまちをつくります

の5つの基本目標を定めております。3ページから4ページにかけては、5つの基本目標における取り組み内容の大枠をお示しているところでございます。現行の教育大綱の説明は以上となります。

新たな教育大綱を策定するにあたりましては、現行の教育大綱をベースとする方法もございませし、全く新しいものを作り上げる方法もございませす。

今回は策定にあたって第 1 回目の意見交換の場となりますので、皆様から率直なご意見等をお伺いし、今後の方向性等を検討してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

○企画課長

関連したものとして教育行政方針が定められておりますのでその部分についても事務局より簡単に説明願ひませす。

○事務局

それでは教育行政方針について説明させていただきます。1 ページめくってもらおうと、教育行政の体系図を示してあります。まず市民憲章、総合計画、教育大綱がありそれを具体的に進めていくために教育行政方針を定めているところだす。

1 ページ目には重点課題として 4 本の柱を掲げて課題改善に努めませす。

- ①「生きる力」としての総合的な学力の向上
- ②いじめを許さない安全で安心な学校づくり
- ③充実して働き続ける教職員の働き方改革
- ④社会教育の充実と家庭・地域の教育力の向上

3 ページについては教育大綱から抜粋したのものについて、どのような事業があるかを抜粋しているものになります。

6 ページ以降については各課の重要施策等を記載しているものでございませす。以上でございませす。

○企画課長

それでは「子どもたちの豊かな育ちのために」のパフレットについても説明願ひませす。

○事務局

保幼小の連携については現行の教育大綱の基本目標 1 にも記載しているとおり、保幼小の連携を図り、小学校以降への円滑な接続や発達と学びの連続性を大切にした幼児教育の充実が非常に重要ということで、令和 2 年度にパフレットを作成ませました。これまでから遊びや生活を中心とする幼児教育と、教科書、教科等の学習を中心とする、小学校教育との間には大きな段差があると言われてませました。そこをスムーズに適用できない、子ども、児童が非常に多くいるというところで、幼児教育と小学校教育をなめらかな接続をする必要があると考えております。まず幼児教育におきましては、パフレット「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」にあるのは、到達すべき姿ではなく、例えば、遊びや生活、こ

うして自然に身につけていくものとして一人一人の発達特性に応じて育てていくものであると考えております。具体的に何をするかと申しますと、まず幼児教育、5歳時の年度の後半に、小学校に向けてのアプローチカリキュラムを各幼稚園、子ども園で作成いただきます。そのカリキュラムに沿って、スムーズに小学校に上がっていただく幼児教育をするわけですが、今度、入学したお子さんが小学校一年生の前半で、各学校が作ったスタートカリキュラムに基づいて、教育をするというものでございます。それぞれ、カリキュラムにつきましては、子どもたちが在籍する幼稚園、保育所、それから小学校だけではなく、家庭も巻き込んで進めていく必要があるということから、パンフレットを毎年、5歳児の夏ごろに、全保護者に配布しております。そうしたことで、彦根市としてはこういった取組、保幼小の連携を図っていくことを保護者にも認識していただいて、家庭も一緒になって、子どもを育てていくことを進めております。ただ、小学校の前半が終わった時点、早い段階で、保育所、幼稚園、こども園と小学校の先生方とで、カリキュラムの見直しですとか、事前カリキュラムを通して、子どもたちがどのように育ったとかの検証させていただいて、毎年カリキュラムが、しっかり運用されるような形をとりたいと考えておりますが、昨年度本格的にスタートしましたので、実際にはまだ、各小学校、具体的な検証まで行っているところは少ないので、これから市内全域で定着させていきたいと考えております。

○企画課長

次期教育大綱策定に当たっては、皆様からのご意見等を踏まえ策定していくこととなります。現行の教育大綱をブラッシュアップするか全く新しい教育大綱を策定するか等含め、ご意見やお考えをお伺いできればと考えております。よろしく願いいたします。

○市長

この教育大綱に関して全く新しいものを作るか、今のものをよりブラッシュアップしていくか、ということに関しましては、個人的には、現行の教育大綱に書かれていることは大変崇高な、もったもなことが記載されていると思いますので、現在に合う形で少しバージョンアップしていくのはどうかと思います。ただ、皆様から色々な意見が出ることで、最終的に全く違うものになるかもしれませんが、全くゼロから考えるよりは、これをベースにしていく方法が良いと思いますが、皆様いかがでしょうか。

○本田職務代理者

今、市長がおっしゃったように、現行の教育大綱をベースにして、詳細を見直して手直ししていくのがよいかと思います。教育大綱と行政方針ともリンクしていますので、それをもとに、また行政方針も見直す時が来ると思いますので、そうした方がよいかと思います。先ほど市長のお話の中に、「心の教育」のことを述べられて、それは好奇心であったり、挑戦であったり、自己肯定感であったりというようなことがありましたけれども、このパンフレ

ットのちょうど後ろに、「ひこねっこ ころそだての6か条」がありますよね。全部それに合わせるわけでは無いですが、これを考えてくださった時に、非認知能力ともいえるのかもしれませんが、「いいんだよ ありのままに」というのは、自己肯定感に繋がり、やってみようとか、何でどうしてとか、学びのチャンスは知的好奇心や、思いやる気持ちとかがあると思う。

もっともっとパンフレットを活用していった方が良いと思いました。細かいことを言うと、やっぱり最初の「はじめに」のところは、市長さんの思いが一番出るところです。ありきたりのことでなくて、熱のこもった市長の思いが出てくる大事なところだと思います。それから基本方針について、私はすごく気に入っており、「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち」という辺りは、本当に彦根に住んでいる子どもたちや親にもみてもらいたいと思います。

細かい事を言えば、E S Dの代わりに SDG s ですね、そういうところを変えていくとか、今の情勢に合う見直しが、多々あると思います。

○小松委員

今日、傍聴に4名の方がお見えになられている。今まで総合教育会議は、傍聴者の方は、ほとんどいないか、たまに1人ぐらい来てくれる。これも、新しい市長になって関心を持っていただいているからかと思いますが、教育委員にとってはちょっとプレッシャーですけど、今後とも総合教育会議には関心を持っていただいて、是非、参加いただけるとありがたいなと思います。

教育大綱に関して、私は、4年前にも参加したのですけれども。先ほどの考え方にあった市民憲章で、そのあとの総合計画、総合計画の中の教育のあり方という項目がありまして、ここをベースに選んできたという経緯があります。教育大綱というのが当時はわからなかった。総合計画というのは、やはり10年単位のものです。当時は人生100年時代とかSDG sとかも無かった。10年間教育大綱として通用する言葉というのは、現行の教育大綱のような表現になってしまうと思います。私としては、教育大綱はあまり総合計画に引っ張られなくてもでもいいのではないかと感じていました。今回、総合教育大綱の4年というのは、市長の任期に合わせて4年間となっております、4年間通用するものであれば良いと思っています。それが通用しなければ4年後の見直しをすれば良い。そういう意味で、大項目の基本目標は、表現はちょっと変えても良いのかもしれませんが、その下にいろいろ、中項目、小項目というのがあります。そこには現在よく言われてる、ICTや情報活用能力の育成、グローバル人材、あるいは超スマート社会においてどうするか、というような少し具体的な言葉を入れても良いのではないかと感じています。少し細くなるのかもしれませんが、ICT等を重点にやっていくとかいうようなことがわかるように、身近な教育大綱であってもいいかと思っています。

○長濱委員

2人の委員が言われたことと、基本は同じです。この大綱の項目、これに関しては、練られたもので、どこに出しても表現的には申し分ない、真っ当なことを目標に掲げていますので無理に変える必要はないと思います。ただ今言われた、時代に合った表現の仕方に関しては必要だと思います。先ほど言っておられた「はじめに」ですね、これに関してはもう完全に、前市長の言葉ですので、新市長の言葉で、感性に、市民に訴えるような形の言葉がいいかと思います。今政治家でも訴える、伝わるのが求められていますので、やはり市長自身の言葉で、誰にでもわかるものを、今は様々な難しい言葉が入ってくる傾向にありますので、注釈入れるなり、市民の色々な方がおられますので、全員がわかる分かりやすい言葉で書いていただければと思っています。

基本的には方向性はこのままで、教育委員に相談しながら、市長の決断で、書かれるべきものだと思っています。

○西川委員

私も皆さんと同じで、この原稿を土台にして、変えていかなければならないことを考えていけば良いのではないかと思います。保幼小の連携ということで、事務局からも、十分な説明をしてもらいましたが、乳幼児保育っていうのは本当に大事だと思います。子どもが生まれて、いろいろと回りの知識を得るという大事な時期で、乳幼児期の興味、関心の大きさは素晴らしいと思います。成長も影響を受けて大きく発達していると思います。

保幼小の連携は重要だと思いますので、目標の子ども一人ひとりの生きる力を育みましても大事にしたいと思っています。

保育園にしても幼稚園にしても、子ども園にしても、やっぱり将来の彦根を担ってくれる子どもたち、同じ子どもたちが成長していく場なので、平等に環境も整えていただければと思います。保護者の社会デビューというのは、保育園、幼稚園に子どもを預けたときだと思いますので、そこで横の繋がりができていることも大事な事かと思っています。

○本田職務代理者

今述べられたことに繋がるのですが、何年前かに、幼児教育の大切さという、講演を聞いた時に、そのスタートカリキュラムのことや保幼小の円滑な連携のことを勉強した記憶があります。そういうことも含めて前回見直した時に、1番の項目に保育のことを記載した記憶があります。先ほどICTの事など出ていますが、どこまで具体的に入れたらいいのか悩みましたが、例えば、2番目の項目には、課題解決型授業（アクティブ・ラーニング）と記載していますが、この項目の中に、効果的に入れるのがいいのではないかと思います。

それから基本方針は、「ふるさと彦根に愛着と誇りを持ち、次代を担う心豊かでたくましい人を育みます」となっており、人づくりのことが一番大きなテーマになっている。その中で、基本目標(4)、(5)は人を作って、そういうまちができる表現になっており、同じ土俵

ではない表現と思いますので、基本的には、教育、人づくりの文言にすれば良いかと思いません。

○小松委員

市長が言われている、「心の教育」は、一般的にいう非認知能力であれば、幼児の時の教育は、脳の構造的にも柔軟性があるので、やっぱり重要だと思いました。

○西川委員

周りから愛され、やさしい言葉をかけてもらえる等、乳幼児期から心の栄養を与えることが、非認知能力を発達していくことだと思います。

○小松委員

そういうことは幼児期から小学校低学年ぐらいが大事なわけで、その中で思うのが、教職員の資質の向上や人材育成が必要だと思います。というのも、最近、教職員の倍率はすごい低くなっており、一番低い所を見たら、九州で2倍、滋賀県では約3倍になっている。昔は7倍ぐらいの時代があって、先生に対する憧れがあった。今2倍の理由は、学校の先生がブラック企業みたいになっているからだと思います。残業は長い、働き方改革と言われているが仕事を家に持って帰ってきている。以前、文科省が先生の本音を聞くというアンケートを取り、先生の質の向上につなげようとしていたが、結果先生の嫌なところが出てしまい逆効果だったと思う。そういうことで、前回の教育大綱は入っていないが、非認知能力を高めるとか、どうやってやる気を高めてもらうか、彦根は若い先生が増えてきているので、そのような観点を教育大綱に入れても良いのではないかと。

○市長

今までお話いただいた中で、「はじめに」には、分かりやすい言葉で、自分の情熱が伝わるように書かせてもらう。当然、市民憲章を経ての基本方針というのは変えずに、これからどうやって実施していくかの中身を検討するということ。今最初の方で言っていただきましたICTを、個別具体的に落とし込んでいくことですが、ICTはあくまで手段なので、何をやるかが重要であって、ICTという言葉自体はいらないと思う。教職員や保護者の方が親として定義される時期に、親向けにということではタブレットを使えばできてくることも一つであると思う。今までは学校だったが、タブレットを家に持ち帰る、例えば、夏休みに持ち帰る時、また別途どう活用するかという中で、まず子どもたちを取り残さないこと、授業に付いてこられない方の補習等、そういう部分もできるのと同時に、視点をずっと子どもたちだけに当てるのではなくて、親側や、教職員側へ視点を当てることを大綱に盛り込むのは非常に重要だと思います。タブレットを使って、いろいろ働き方改革的なことができるのと同時に、おっしゃっていただいたように、子どもたちにどう向き合っていくのかというの

を、保護者目線、教職員の目線でこうしてもらいたいのメッセージは、当然、織り込んでいったほうがいいかなと思います。それと、お話いただいている中で、やはりこの幼児乳教育の重要性というところをもっと大胆に触れてもいいかなと思います。三つ子の魂百までと、ものすごく影響が大きいですし、本当に慎重さも求められると思います。その後の人生或いはその後の学習能力や学習意欲を決定付ける重要な時期ですので、取り組んでいきたいと思います。委員おっしゃったように、行き過ぎたなと思えば、4年後修正するかもしれないですけど、ある程度挑戦的な、挑戦過ぎてもダメだと思いますが、革新的なものに踏み込んでみるのもいいかもしれません。小学校になってからならば、より時間がかかってしまうものもあると思います。そうであれば、もっと早い時期から、取り組めることは取り組めたらなと思います。まず、基本目標1の小学校以降への円滑な接続以前に個別でその重要性を取り込みたいと思います。

○教育長

幼児期の教育の大切さは言われており、幼児期に質の高い教育を受けた人は、その後の人生に大きな影響がある、ということが科学的に言われ、かなり経済学の中でも使われています。ですから幼児期に大事なものは、点数化できないような力、また心の面の力ですね。市長がおっしゃっている「心の教育」になると思いますが、非認知能力として最近話題になっており、この育成は非常に大事だと思います。これは幼児期だけで育むのではなくて、小学校だけじゃなくて中学校でも、その後の教育においても育むものです。しっかりやりきる事や、失敗をした原因を探って、それを、次、成功するためにチャレンジし続けるであるとか、そういう力は、学校を卒業した後でも非常に重要になってくると考えています。それをするためにはどうするかというと、その人の成長に関わる人すべてが同じような対応をしていく必要があると思います。例えば「ひこねっこ ころそだての6か条」で最初の、「いいんだよ ありのままです！」これは自尊感情の大切さを伝えたい、子どもたちができるようにしていきたいということで、最初に入れているのですが、その大人の関わり方次第で、子どもが失敗しても、「今はできないけれども、次は頑張ろう」というような気持ちになるような働きかけというのは、やはり周りの大人がしてあげるべきだと思う。それは学校や地域、そして、まず家庭で話してあげる。幼児期だけではなく、その後の学校教育とか、また社会に出てから彦根市内の皆さんが、こういう関わり方をしていくということが、人を育てていく上で非常に大事なことではないかと思いました。ついては「心の教育」は、今度の大綱の中ではしっかりと明示をしながら、市民を挙げて取り組みをしていただければ、きっと明るい彦根の未来に繋がるのではないかと期待をしております。

○本田職務代理者

最近コロナの関係もあると思いますが、地域の行事等が縮小され、なかなか子どもたちが、活動する場が窮屈になっている。それは駄目で、地域の人達はできるだけ気をつけて、行事

をやるように働きかけており、そういうところに参加する子どもは、水を得た魚のように生き生きとしている。

親にのみ子どもの教育を求める時代ではなく、たくさんの人が関わってくれることで、子どもたちは、一方で怒られても、一方で認められたといった喜びがある。できるだけこの地域の人の力を借りることで力になると思います。

○小松委員

彦根らしさを考えたいと思います。教育大綱について各市の大綱を見ると中身は、そんなに大きく違わない。その中で、彦根らしさを考えており、先日、佐和山小学校に訪問した時に、佐和山小学校のベースは石田三成だと感じました。校長先生も、石田三成のマスクを着けている。それに「大一大万大吉」もありました。城西小学校や城北小学校のベースは彦根城、稲枝に行くとも荒神山といったふうに、彦根には17小学校あるが、その地域ごとに地元愛がある。他にもイングリッシュコンテストでは5人のグループで、英語で学校の説明をする。ここでも地元の愛を感じるようなことが多いです。

私の出身は大阪だったが、ここまで地元愛はなかったもので、彦根の人は大きくなってもしょういう地元愛は残っているのではないかと思う。17学区が上手く拠点となり、そういう意味でもこのような地域は少ないように思う。委員が言われた地域とか、大綱に書かれている歴史と伝統等を若いときに感じて、彦根から出て行っても帰る場所があるような所が彦根らしさではないかと思う。その辺は彦根の自慢できるところなので大綱の中にも入れていても良いと思う。

○市長

基本目標(3)で「次代を担う地域の子どもをみんなで・・・」を、「次代を担う子どもたちを地域で守り育てます」にしてもいいと思う。本当に地域、また国単位で、一旦大学を出ても帰りたいと思うような、町っていうのを、実際、私も高宮で祭りをやっていて、ここでも若干、保健所と対立しながら流しそうめんをやりたいと思っている。怒られるのですが、それをすることによって何か、小さいころの思い出に残したいということで、保健所に了承してもらってやっている。そうゆう郷土愛というのは、本当の部分、ふるさとに帰ってきて思えるというのは、言っていたような歴史と文化があるからこそだと思います。彦根のように自然も豊かで歴史も文化もある町に住むと、郷土愛もあると思いますので、言っていたように織り込んでいきたいなと思います。やっぱり帰ってきたら、なんか郷土に何かしたいっていう思いを持っていただけたら幸いだというふうに思います。

地域でコミュニティスクールじゃないですけど小学校単位で何かをできて、地域の独自性の中で見守っていただけるような仕組みっていうのは非常に大事になってくると思いますので、委員おっしゃっていただいたように、コロナ禍で本当にイベントも少なく、田舎の良さの従来の地域というか、行事の繋がりの部分が非常に欠けておりますので、見守りとい

う意味でまた問題もありますし、子どもたちも変わっているが、高宮小学校でもこの1年、2年マスク姿のため、顔が覚えきれないところも出てくるので、アフターコロナになります。が、地元としても地域ともっと関わる、関わって見守る必要があります、犯罪等の抑止力にも繋がるので、地域で守り育てるという中で盛り込んでいければと思います。

○小松委員

旭森小学校に関しては、新しい人が入り込んでいます。都会から人が入ってくると学校の中の意見も変わってくる。大規模校になればなるほど、地域性をどのように残していくかが難しくなる。その辺は先生の力が必要になると思う。

○市長

人数が増加してしまうとしてしまうので、せっかくの良さも変わる可能性がある。最近が高宮の半分ぐらいは新しい人になっている状況です。

○永瀆委員

確かに彦根らしさを残すというのは重要なことだけれども、現実問題として、ちょっと逆行するようなこと言って申し訳ないのですが、新興住宅地は、ほとんどが企業の関連で、他市町村や都会から来られる。もともと彦根に住んでいた方が戻ってくるわけでは無く、新しく来られる方の割合が多い。PTAの関係では、やはり都会的な感覚の保護者が多い。今、PTAからは4年ぐらい離れていますが、都会から来られた方々に田舎の常識を押し付けることも難しいところがあると思う。ある程度、効率性とか、その辺も含めて都会的な感覚も取り入れていかないといけないと思いますが、なかなかそのバランスが難しいと思います。大綱として市長の思いを載せるようにすれば良いと思う。しなくてはならないではなく、そうやって欲しいという希望として記載すればよいと思う。

地元の教育に関する事、小学校に関しては残念ながらあまり無いですね。子どもにはその町を授業の中でめぐるとあるけれども、親の世代に対するアピールが難しい。太鼓祭がありますが、やはり、地元からの古い町の方がみんな鉦なり太鼓なりを持って集まってくるだけであって、新興住宅地の方、これは好きな方もおられますし、協力してくれる方もおられるので、そういう方にもっと強力願いたい。

○市長

ここは何かちょっと壁があるのは事実ですね。

○永瀆委員

ただ、「しきたり」といった過去から集まって何かをする機会は、何かをしなくてはならないという義務がある。参加するためには何かしなければいけない等。そういう縛りがある

と、なかなか入ってこれない。そういう側面もあるので、なかなかそう難しいところです。

○小松委員

いや、もう最近PTAの会長を選ぶのも、好きでなる人はいない。

○市長

そこをもう少し知りたい。もうほぼ、立候補も出なくて、罰ゲームになっています。そもそも言えば、PTAのあり方から考え直さないといけない。

○永瀆委員

僕らが知る範囲では、学校によってバラバラです。僕が小学校、中学校についてPTA会長して、先ほど昨年、一昨年、小学校のPTAの会計をさせてもらったけど、他の、会長から次の会長に暗黙の了解というところもあり、完全に選挙というところもある。投票の仕方にも、例えば定員10名とすれば、役員20名ぐらい集めてその中で選挙をすとか、あるいはその中でくじをすとかバラバラです。

残念ながらその地域によって小学校、中学校のPTAの役割分担の差がすごくあり、特に小学校はですね、プリントなり、すべての行事をPTAがしなければいけない。中学校は対して、先生が主導でやっているのでもその違いがある。

○市長

実際、サラリーマンの方でできるようなレベルではないですよ。

○永瀆委員

特に小学校の会長職はそうですね。後、僕はちょっと幼稚園のPTAについて知らないですが、自分の子どもは全員保育園出身なので、けれども負担感が強いと聞いています。打ち合わせがどれぐらいあるのか知らないですが、教育ですから、その保育じゃないので、親もできるのかもしれませんが、幼稚園にも働く親もおられますし、保育園に入れなかったから幼稚園に仕方なくっておられる方もいます。その親がね、働いているので祖父母に頼み、祖父母にPTAの代役をしてもらっている方もおられる現状です。そうゆう点でPTAに対して、すごいバリアを張り、いろんな情報も入っておりますので、なり手が少ない状況です。ただ好きな方は直ぐにやっていただいている方もおられます。一部の情報となりすいません。

○教育長

だんだんですねPTAにも入らない方も出てきている状況です。ですからいろいろ考え方があるということになるわけで、ただ学校の教員からすると、例えば学校のこれまでやってきたことを、変えていきたいっていう時に、誰に話をするかという、やはりまずPTA

の会長さんはじめ、本部に話を持っていきます。それでこれまでやってきたことを、思い切って変えるような改革をしているのですが、PTA自体が倦怠化してしまうと、そういうことをする時に、学校だけの考えでやってしまうことが出ることや、また総会にかけてやらないといけないこと等、いろいろ不都合が出てくる。教育というのは、まず家庭が主体であり、地域、学校も一緒にやらないといけないと思うのですが、そういうことが学校だけに任されてしまって、学校教育が学校内に閉じられてしてしまうのは子どもにとってマイナスしかないと思います。ですから、今の時代に合った形で、皆さんがやれるような形で、少しでも負担を分担しながらやれるような方向性でやっていければと思います。彦根のPTA連絡協議会もいろんなことをやられている。例えばマニュアルを作って配られたりとか、挨拶文の参考例を配られたり、いろんな工夫をさせていただいていると聞いていますけれども、今の時代に合ったやり方で、地域の子どもは地域で育てていこうという意識を、彦根市として醸成をしていかないといけないと思います。ですからPTAだけではなくて、いろんな役も敬遠されるケースもありますけれども、自分の役割を通して、自分が生かされているという、承認されることの喜びも、あると思うので、自分が役割分担しながらその協議に関わっていける喜びを持っていただけるような工夫をしていかないといけない時代かと思えます。

○市長

倦怠化して何もできなくなれば、どうしようもないので、最初からそんなに負担が無い事が分かっていたら受け手も出てくるかもしれない。軽減する形として、会長経験者が残られるような形や、この地域の見守りの中で、昔の経験者の方等が残っていただいて、学校全体、学校単位でやっていただくといいのかと思います。いきなり引き継がれて会長、前会長からだけだと、何の知識もないと困るので、何となく地域で、ある程度のことはできるけど、名前だけ会長とかの負担になれば受けてもらえるのではないかと。

○永瀆委員

ちょっと実際は無理だと思います。そこまでできる方、時間的に余裕のある方は、なかなかいないです。好きな方とか時間的に余裕がある方がおられるかもしれませんが、それを求めるのは酷だと思います。また、あんまり長く、過去の方が残りすぎると、新しいことが何もできません。なかなか難しいところだと思います。今までから学校や地域で、そのようになってきたので、周りから言うのは無理かなと思います。

○市長

いずれはちょっと負担を軽減する方法は見つけていかないと、結果的にね、もう全く機能しなかったら、やっぱり学校側の負担も大きくなるので、ある程度、PTAの保護者側の負担が若干でも軽減できるような方法でやっていかないと今後もちょうと難しいかなと思います。

ます。

○永瀆委員

役員会の中でも、教職員代表のPTAの方もおられるのですが、先ほど言いましたように小学校と中学校でも負担の差が大きい状況です。幼稚園の方でも、子育て自体まだ大変な時期の年代の方が、PTAに参加することで幼稚園運営に関しての引継ぎを受けるだけで、メンタル的に不安定になってしまうという事例がでてきてしまっています。親の世代に応じて負担を変えていかないといけない。幼稚園という場合は今まで、専業主婦の割合が多かったと思います。ただ、今は働いている方でも入れざるをえない状況になっている。そういうことから考えても、やはりそれなりの配慮が求められると思います。

○本田職務代理者

PTAだけではなくて、町の役員も担い手がなくなっている状況にあると思います。ただ私はPTAの役員をしたことがないので、あんまり大きなことは言えないのですが、ケアされながら役員をやった人は、1年間終わるタイミングですごく視野が広がって、学校とも近くなり、話し相手や仲間ができて、大変だったけど充実していたという方もいれば、忙しくしている人はやっと終わったと言ったような人もおられ、様々でした。私が思うには、ふるさと作文っていう募集があるのですが、盆踊りのこととか太鼓祭りのこととか、螢のこと等、新興住宅がある学校でも、自分たちの木とか、夏祭りとか、いろんところでPTAの人達が、新興住宅の集まりも工夫して子どもたちが、憩うところや機会を作ってくれた長い歴史もあって、みんな忙しい中、前向きに取り組めるような、学校側が働きかけやPTA連絡協議会の働きかけ等、1回ちょっと立ちどまる必要があると思いますね。

○教育長

今PTAについての役割も変わる、変わってきていると思います。実は今、学校の方は、地域とともにということ、地域学校協働活動を学校に活かしていくという流れがあります。また市内は6校ですが、コミュニティスクール、学校運営協議会を置いている学校もございます。これからコミュニティスクール化をしていって、地域とともに、これからの地域を支える人材を育てていくという方向性に今あるので、今までPTAの役割から変わってくると思いますので、その辺を整理しながらやっていけば、PTAの方もっと活性化できるのではないかと思います。

○市長

プリントの話とかはタブレットにアプリ入れて、もうできること全部、PTAアプリがあって、フォーマットで全小・中学校で使えると思う。全部は共通化できないかもしれませんが、今でも共通化できる事はどんどん削減して、ペーパーレスにして、少しでも負担を軽減

できないか。いろんな行事連絡等々も、全生徒でなくて、ターゲット絞って発信できるはずなので、PTAの連絡も省力化できればなと思う。その点についても先進事例がないか調べていきたいと思う。

○市長

基本目標4だけではないが、意見を聞かせていただきたいと思います。まず学力テストについて、点数だけにこだわらないということを冒頭申し上げさせていただいたのですが、そのことと、多方面に渡ることによってスポーツ、文化の分野でどうやって能力を伸ばしていくかをお願いしたい。

学力テストについては何か一定の取り組みは、必要であると思っています。それだけにこだわる必要もないのですが、別に同時進行でこだわってもいいかなとも思います。どういう方向で例えば彦根の教育として触れていくか、ご意見お聞かせいただきたいと思う。

○小松委員

毎年行われています全国学力テストで、今年も4月に実施し8月に結果がでると思います。私は滋賀県そのものが、消極的だと思っています。全国でマスコミが平均点を出して県別に順位付けしていて滋賀県は、大体40から47位ぐらいの間で、そのことに対して、毎年、結果を真摯に受けとめていますと言っていますが、何年経っても状況は変わらない。知事にしても、教育長でも、テスト結果で、教育を固めるものではなく、もっと大事なものがあるというベースがあるのです。そのベースがある以上、点数自体を上げようということをやっていない。ただ、先生の意識や家庭のことを考えると、学力テストの結果を真摯に受けとめることが必要だと思う。学力テストというのは結構よくできており、非認知能力等もよくわかるような、テストにはなっている。だからこそ何が悪いのか受け止めることが必要ではないか。先生自体が学力テストの問題をやっていない人も多く、意識も低いと思う。結果にはこだわらないと低い点数の県が言うのもどうかと思うので、結果を真摯に受け止めて対策をする必要があると思う。

○教育長

学力テストについて点数を上げることだけに固執すると、教育が変な方向に行ってしまうと私は思っています。そのテストを委員おっしゃるように、例えばしっかりと授業を振り返り、見なおして改善をしていく。それから子どもたちについては、できてなかったところについて、もう一度確認をして、できるようにしていくということに、活用していかないとけないと思いますので、結果、点数だけに注目するのではなくて、どこが、よかったのかな、どういう指導ができてないのか等、学力学習状況調査本来の趣旨に合うような形で活用をしていく必要があると思います。今年はコロナで遅れるのですが、一応夏休み中に、学校の方でも各教員で問題をもう一度解いてみる等、実施するところもあります。また、教務主

任を学校において、学力・学習状況調査をテーマにして、市全体として取組の共有を図り、好事例については、各学校に広げるような活用をしていくことをする。順位だけに固執してしまうことは、繰り返しになりますけども、教育を誤った方向に進めてしまうようなことになるので、その結果から、しっかりと、反省すべき点はして、それを改善して、次に生かすということに力を入れていきたいと思います。

○小松委員

今、教育長言われたように、確かに点数だけにこだわるっていうのは変なところ行くけれど、やっぱり現実に出てくるのは点数です。それを率直に今の自分の位置付けはここだということを認識する必要があると思います。滋賀県の言っていることは綺麗事に聞こえます。「学力」と言えばいいけど、絶対「学ぶ力」、ここは素直に学力を上げると言えばよいと思う。「読解力」で言えば「読み解く力」となり、ごまかしを感じます。

○本田職務代理者

今のことですが、ごまかしではないです。読み解く力について県の説明があったので、それを今回読み返してみると、単なる読解力でなくて、相手の仕草さとか、ちょっとした表情とかいろんところから、感じ取る感性とかで、最後は大人になるための一つの読み解く力という理屈になっている。「読み解く力」は綺麗事につけているのではなくて、そういう意味で使っているのです。だから、ICTの活用もその読み解く力、学力向上にもっと活用していきましょうという説明もされていたと思います。

私が思うに、毎年受ける子どもも違います。しかもコロナで十分な学習の時間を保障されていない場合も出てくると思います。しかし、子どもを見ていると、1点でもいい点数が取れたら嬉しく思って、次に繋がりますからね。だから、そういう教え方を先生が一人ひとりをしっかり見て、その子に合ったような指導してあげることが必要だと思う。そのためには教師の力は必要で、そのために授業研究とか研究会をすることで力を高めているので、それによって、教えられた子どもの理解も深まるわけで。教師の力を上げる一つの、指標という材料にして欲しい。

○小松委員

全国学力テストに関してはやりたいと思ってないです。そんな感じがします。点数を上げようとするのが見えない。

○教育長

先ほど言いましたけども、やはりその指導とか、学校教育の改善と、それから子どもたち一人ひとりにとっては、内容で定着できていないところの見直しの確認ということなのですが、まず委員おっしゃることの中で、例えば、子どもとすれば自分の今の状況を、そのま

までいいやと受けとめるのではなくて、できなかった事を次はできるようにしようとか、次の目標に繋がるような働きかけを学校としてすべきであり、しないといけない。テスト結果だけ見て終わりじゃなくて、悔しさをバネにして、次頑張るとか、そうそういうことを委員は多分おっしゃりたいと思います。

○小松委員

例えば、福井県は大学の教育学部と連携して分析している。県全体で対策を行っている。ところが、滋賀県についてはレベルを上げる事について、具体的にはどんなことやっているのか聞きたい。

○市長

そこについては市独自でやりたいと思いますが、せっかく近くに先進事例があるので、県でも視察等行かれている状況なのでしょうか。そこから良いものを取り入れる等できればと思います。

○教育長

それは視察に行くことや、派遣をすることで一応学んできている。学んできたことは、現在の政策、施策にフィードバックしており、今行っている授業改善についても、秋田方式を使っている。取り組みについては、例えば福井方式を取り入れる等、家庭学習の改善とか、いろいろな取り組みをしている。

○小松委員

福井県等は各学校全部が徹底していると思う。私が視察に行った学校には親分のような方がおられ、その人が強くやっているようなイメージでした。

○市長

ただ、やり過ぎの失敗事例もあると思う。自殺じゃないけど追い込みすぎてっていうのもあり、バランスが大事と思う。

○永濱委員

この学力テスト自体が、すべて公立の先生方の教育のやり方の評価として考えられるのは違うと思う。学力テストを目標にやれば、状態からして低い点数の方を上げることによって平均点は上がります。そういうやり方も一つ。ただ、そうなれば上位の方は上げようがない。だから、極端に点数の低い方を少なくすることが1つだと思います。もちろん高い学力の子が多ければもちろん平均も上がります。このテストを確認しましたが難しく、読解力が必要だと思う。ここで塾のことを言うのも憚られますが、やっぱり家庭教育、親の意識。常々

言ってきましたけど、塾だけがベストとか言いませんが、やはり公立の教育にプラスアルファの教育。塾に通っておられる方っていうのは、学力を上げる事が目標なので、効率の良い勉強の仕方をします。ならば学力テストを目標にしなくても、やはり問題を解くという経験値は明らかに違います。やはりそういうところの要素も入ってくるのではないかと思います。学力テストの中で読書時間とかいろいろ、子どもにアンケートがあり、「塾に行っていますか」とか、「週何回行っていますか」というのもあったと思います。評価するにはそういうところも入れないと、単に公立の先生をこの結果だけで評価するのは違うと思う。家庭教育に力を入れている割合の高いところの点数が上がっているのは当然の結果なので、福井の方は宿題とか、家庭の教育をやらせる意識を強く持ってもらいますという説明を聞いたことがあったと思います。

家庭で復習する等、その辺の意識を持ってもらうことの方が効率が良いと思う。先生方も、教えてないわけではないので、もちろんその点数に比例して、教え方が上手いとか下手なことはないと思います。

○本田職務代理者

状況調査という部分があります。答えを書くのではなく、読書の時間が長かったり、眠りの時間が早かったり、そのようなところもリンクしていて面白いと思っています。不登校で学校に行けなかった子は、本が好きで、遅くに中学校行ってから勉強を進める等、その時その時にあったことを講じていく必要があると思う。学力テストの問題を見ると、ベースに国語力が必要だと思う。また話に出ていた非認知能力と関わるとは思います。向かう力等の影響は大きいと思います。

○永瀆委員

私が言ったのは学力テストが良いか悪いかではなく、その分析はどうかというところ。皆同じ土俵で、順位化しているのであれば良いが、それぞれの子どもたちの、もともとのその勉強の状況というのは違います。だから公立学校の先生方の評価をするにはちょっと私は間違っているのではないかと思います。

○市長

私立の中学校受験をしているところに比べれば環境が大きく違います。福井や秋田などはもうすでに次のステージに行っていると思う。我々が勉強したところよりもさらに進んでいると思うので、ちょっとそこはキャッチアップをしたいなと思っています。学力テストだけを上げるということではなく、そこにはヒントがあると思うので、せっかく大綱を作り直すのでそこを再考したい。そこで最新の学力テストの情報がほしい。

○永瀆委員

学力上げる構造には、親の協力、親の意識が必要だと思います。委員が言われるところ、自分も親の立場ですけど、正直、自分の住んでいる県や地域の学力レベルが低いと言われるのは良い気はしない。自分の子どもも含めて、地域として全体としてレベルを上げてもらいたいという親の気持ちですが、それ自体興味のない方もおられるのが現実です。家での教育、復習を含めて、家庭教育、家での学習時間がやっぱり必要だとアピールしていただきたい。これは先生方が頑張っても仕方がなく、家庭の親一人ひとりが認識しないと子どもに還元されません。いくら子どもが頑張っても、親がそういう意識なければ、勉強時間を取られることはないにしろバックアップしてもらえないので無関心な親を少なくすることも重要だと思います。

○市長

タブレットの宿題で親がチェックできるような項目が一つでもあったらいいなと思う。今までのペーパーの宿題とは違って親がチェックできる仕組みを。あと学習の指導の仕組みとして家での復習の仕方を伝えられれば良いと思う。

話は変わりますが、スポーツに絞ってこれから教育大綱に入れるかどうかの意見を聞かせてください。(4)の2番の項目で、国民体育大会に向けた競技力の向上など、スポーツの振興に取り組みますということがありますが、国スポ等も最後の年に該当することもあるので。

○教育長

(4)の生涯学習の振興、充実とは、これからの時代、彦根市が国スポ・障スポの会場になる事だけでなく、人生100年時代という中で、生涯を豊かに生きることからすると、文化スポーツについては、学ぶ機会は重要になってくる。そういうことで市民がいろいろな学びの機会とか、運動する機会を入れることによって、例えばスポーツですと地域で子どもたちへのスポーツの普及に繋がることも増えてくる。文化については、例えば、お茶の場合ですとそれを学校で教えてもらうというようなことで文化に親しむ機会になると思います。生涯学習の充実というのが、地域の教育力の向上に繋がって、そのことは学校教育のこれから向上に、繋がってくる好循環を必ず生むものであると思っているので、生涯学習の充実っていうのは非常に大事だと思います。

○小松委員

生涯学習の中に以前ロボティクスというのがあったのですが、サッカーのような試合をやるもので、1回彦根のチームが世界大会まで進出ことがある。それは地域の協力もあって、獅山市長時代にモノづくり理科離れを防ぐために行ったもので、それを地域と行ってきたもので、この取組は生涯学習としてのとても良い取組だったと思っています。あのような、

はっきりしたターゲットがあれば、地域にも長けている人がいるので、学校と連携して取り上げていただければと思う。

○市長

結構指導者が大変ですよ。

○小松委員

指導者もね、地域の方とか、大体 50 人ぐらい出て熱心にやっておられました。親御さん等とかがですが、最近は卒業した人でも引き続き参加していただいている。

○市長

コミュニティスクールの種類として入れ込めたらいいのですが、そこまで専門性が高いとなかなか指導者を集めるのは大変ですが。

○教育長

今、授業の補助として入られているケースもあるのですが、例えばミシンを使うときに、その使い方について、地域の方の補助を受けていることがあったり、総合的な学習の時間で町探検を行うときに、地域を巡る時の引率や子どもたちへ話をする講師としての、立場で協力していただいている方とか、そういうことを盛んにやっておられるところもあります。コミュニティスクールよりは、地域学校協働活動というところです。

○小松委員

さっきの彦根らしさの事ですが、彦根には大手企業が多く、そこは社会貢献に関して熱心にされている。まだまだ環境関係とか部分的なものにとどまっている。そこを広げて、企業に人材を出してもらうように言えば、積極的にはやってくれる環境だと思う。企業CSR的なこととして。大手企業のまとまりというのは、商工会議所の中にあるので、そういうところと繋がっていくことも大切だと思う。

○市長

今後、彦根工業高校で、マイスターハイスクール構想として国の事業で選ばれたので、補助がでて、実施しているものもあります。小中学校でも、早くから学校、学習指導要領とは違う多様性、多方面で活躍いただけるように、将来に夢を持っていただきたいので、大手企業にはすごい技術や指導力を持っておられる方もいらっしゃる。そういう方と関わる、方法がないかと思う。学校と大学との連携もそうですけど、大手企業が多々あるっていう彦根らしさを活かしたことができればと思う。

○小松委員

秋頃に大手企業と市長との懇談会があるはずなので、そうゆう場で伝えてください。みんな嫌とは言わないと思います。

○市長

ありがとうございます。

時間になりました。本日は本当にありがとうございました。自分の頭の中で考えていたことの何倍にもなる、文殊の知恵をいただいて広がりを持てたと思います。宿題もいっぱいあるので、自分自身も勉強して、次回に向けてちょっと勉強したいと思いました。ちょっと5回で足りるかどうかは不明ですが、これだけ勢いで出てきたら、何となく文言にはまとめられているのかなというふうに思います。

課題も見つかりましたので、ぜひ今後とも、引き続きご協力を、どうぞよろしく願います。今日はありがとうございました。